

寿地区開催 市長と住民の「こんだん会」  
～臥雲市長にアタック！地域の元気な声を届けよう～  
報告書

- ◇ 開催日時・開催場所  
令和5年2月26日（日）午後1時30分～午後3時30分  
寿公民館 大会議室
  - ◇ 寿地区テーマ  
「子どもは寿の宝」  
安心して子育てができ、地域の子どもは地域で育てる地域づくりの取り組み
  - ◇ 参加人数  
37人（市長、参加団体17人、傍聴者14人、関係職員5人）
  - ◇ 参加団体  
別紙1のとおり
  - ◇ 「こんだん会」の内容
    - 1 参加者自己紹介
      - ☆ 子どもに対する活動の中で、嬉しく思うこと、やりがいを感じるなど一言を添えて
- 【参加者の一言】
- ・ お母さんを助ける活動で自分が元気になれる。
  - ・ お子さんはもちろん、お母さんが楽しそうに笑顔を見せてくれるのが嬉しい。
  - ・ 活動を通じて、楽しく、若返る時間をいただけると感謝している。
  - ・ 上の子が下の子を見る、下の子は上の子を見て成長していく。コロナ禍で、子どもは子どもなりに考え、活動ができている。成長している姿を見ることができ嬉しい。
  - ・ 子どもは家にいるだけでは体験できないことが経験できる。自分自身も一緒に活動する地域の方々や子どもたちからいろいろ学ばせて貰っている。
  - ・ 休みの日に子どもが活動できる場があるのは助かる。昼食の提供も働いている親としては助かっている。
  - ・ 地域の行事をとおして、子どもたちが交流し、友達の輪が広がっていく関係ができていけばと思う。今の子どもは楽しいことがいっぱいあり、大人も含め地域の行事に引き込むのが大変難しい。

- ・ 子どもたちのなかにボランティア意識をもった子がいる。活動する姿が頼もしく、寿の明るい未来を感じている。
- ・ 普段は子どもと接する機会がない。孫と遊んでいる気分になれる。
- ・ コロナが落ち着けば子どもたちと一緒に食事をしたい。
- ・ コロナに感染したら誰が責任をとるのかという声もあり、迷いながら活動してきた。
- ・ 松本大学の先生や学生にも活動に携わってもらえた。町会の高齢者クラブの方にも参加してもらえて良かった。

高齢者世帯、独居老人世帯が多くなるなか、人と人との関わり、子どもから大人、高齢者との関わり、関係づくりが大切だと思う。そのための場づくりが必要だと思う。

### 【市長】

皆さんの活動が多様・多彩にわたっていると感じた。

活動の目的として、子ども、子育て世代、祖父母世代の繋がりを寿地区全体で回復していこうという点は共通しているが、その上で、団体ごと力点の置き方が少しずつ違っていて、そのことが、子どもや参加者の選択肢が増えることに繋がっている。子どもの姿が見えない、声が聞こえないまちは未来がない。皆さんが実感しているように、少しずつ子どもの声が聞こえるようになれば、楽しいこと、明るいことが多くなると思う。

## 2 懇談

### (1) 活動から見える課題

#### 【寿学童さくらんぼクラブ】

活動の担い手を探せるシステム、人材バンクのようなものがあればありがたい。

#### 【市長】

学童クラブだけでなく、学校外の様々な皆さんの活動で、より専門的な役割を担っていただく方々を広く募って、仲立ちができるプラットフォームのようなものを、行政として、何らかのサポートを、人材を紹介できるように考えていかないといけない。

#### 【寿田町町会青山様ぼんぼん実行委員会】

P T A 役員の多くがフルタイムで土日働いていて、活動への参加が難しい。一部の役員に責任が集中し、ボランティアも集まらない。来年度、筑摩野中学校の P T A が解散するという話もある。今後、P T A の活動が続けられるのか、子どもたちの行事がなくなってしまう心配がある。

今後、保護者の負担がなく活動を続けていくにはどうすればいいか、皆さんの意

見を伺いたい。

【よっといで広場】

「よっといで広場」は、一人の子どもを集めて何か楽しいことをしたいという強い思いから活動が始まった。今年度の地域自治支援交付金もきっかけになった。友人など町会とは別の有志の方で組織している。

保護者というよりも、地域全体で、やりたいと思っている、ボランティアしたいと思っている人はいると思う。そのような人の声を拾う、声かけをするというアクションが必要だと思う。保護者に限らず祖父母世代に呼びかけてみては。

【市長】

非常に強い思いを持って関われる、物理的にも時間的にも余裕をもって関われる人たち。そこまでは無理だけど、ゆるやかに関われる人たち。かかわり方に濃淡というか、段階があっても、関われる人たちの裾野を広げることが必要だと思う。

筑摩野中学校PTA解散については、もともとは任意団体なので、本来の有志参加に戻そうというものと捉えている。解散によって、今までできていたことが短期的にできなくなることがある。一方で、学校と積極的に強く関わりたいという保護者の方を中心に、緩やかに関わりたい保護者とともに、新しい学校との組織ができることも期待できる。今の世代のカップルの働き方や、今の世代の地域とのかかわり方の価値観に合わせた新PTAを生み出していければと思う。

【ことぶきサポート推進協議会】

中学生のサポーターが7人いる。この春には6人になってしまう。何とか若い支援者を増やそうと努力はしているが、なかなか集まらない。さきほど、お話のあった緩やかに活動したいと思う人たちに活動を広げていく取組みを検討していきたい。

【市長】

高校生くらいになると、スマホやラインを利用する。デジタル化の手法を取り入れ、簡単にやり取りができることで、短時間に急遽、迅速に人の融通をつけることができ、参加できる人たちの裾野を広げることができると思う。

デジタル化は、担い手不足の一つの突破口になると思う。若い世代が、より活動に関わることで、いい方向になっていく。

(2) 今後の活動

【寿田町会青山様ぼんぼん実行委員会】

「青山様ぼんぼん」について、今年度、コロナの関係もあり中止となったが、開催に向け準備は進めていた。参加者を募集したが児童71名中、参加希望者は9名だった。来年度、もっと大勢の方に参加いただきたいが、アドバイスをいただけないか。

【市長】

先ほど話があったが、今は楽しいことが多く、子どもを地域の行事に引き込むのが困難という側面がある。

「青山様ぼんぼん」については、特に、まち中は子どもが少ないなかで、何とかしたいという思いから、町会合同での開催を模索されているケースもある。子どもの数が集まらないならば、松本城を舞台に、日時を設定し開催することができないか、担当部局に検討してもらっている。

従来のやり方でできない場合でも、本来のやり方からすると5割かもしれないけれども、やれる方法で、開催できない状況に歯止めをかけることも大切だと思う。そして、伝統行事にも、ゲームや遊びとは違う楽しさがあるということを知っていただきたい。

先ほどの話であった、活動に強い思いを持つ人達が動き出し、子ども達にその輪を広げていくというように、段階的なアプローチも方法だと思う。今の生活の形にあったものを皆さんで考え、提案し、場所など問題があれば、市役所や地域づくりセンターに相談をしてほしい。

【にこにこルーム応援隊】

町会に「知恵袋」が大勢いらっしゃいませんか？今の時代、保護者だけで何かやろうという時代ではないと思う。町会全体で、町会の「知恵袋」を引っ張り出せばいいと思う。

【にこにこルーム応援隊】

担い手についての悩みは共通。平日の午前中の活動なので、仕事をしている人は無理、リタイヤした方が活動のメインで、高齢化など人数の確保が難しい状況。

今後の活動としては、小学校に限らず、寿保育園にも活動の輪が広がろうとしている。交流や遊びのほかに 芋ほり、竹馬づくりの話がある。寿東保育園、平田保育園とも交流ができたらいいいと思う。

【よっといで広場】

今の子どもたちは、外で遊ぶことが少ない。並柳の松本山雅の事務所に勇気を振り絞って行ってきた。サッカー教室というより、子どもと遊んだり、一緒にサッカーをしてほしいとお願いしてきた。正式な回答はいただいているが、このような計画を立てている。

【市長】

山雅に飛び込みで訪問したことで、何かが動き始めるかもしれない。小学校でも担い手は十分でないなか、保育園からも要望がある。それぞれ活動すると、担い手の部分でいうと限界があるが、それぞれの団体・組織を維持しながら、一方でもう少し大きくなり、寿地区全体で多世代交流をしていくような、連携の仕組みができていけばいいと思う。

【にこにこルーム応援隊】

地域自治支援交付金は大変ありがたい、今後ともお願いしたい。

一人でやると続かないけど、地域のあらゆる団体を巻き込んで活動すれば長く続いていく。団体同士、助け合うのはすごくいいと思う。私も困っている団体の方にアドバイスできたら、知恵袋になれたらと思っている。

【市長】

モデル地区事業は、できるだけ住民に近いところで、働く職員が増え、職員と住民の皆さんが必要な金の使い方を考えることができる。交付金を使えることで、活動に対して強い思いの人も、少し緩やかな思いの人も参加し、主体的にまちの必要な部分に、仕事や暮らしのバランスとりながら関り、自分の子どももよその子どももハッピーになるという方向に進めていこうというもの。

モデル地区8地区は全体35地区の牽引役となり、皆さんの活動を広げていていただきたい。

(3) フリートーク

【寿小池町会子ども広場運営委員会】

いろいろな団体（育成会、高齢者クラブ、公民館など）と連携し活動している。一つの団体だけで活動するのは難しいので、横のつながりを密に、連携することが大切だと思う。

松本市には、こども福祉課の「子どもの居場所づくり推進事業」、教育政策課の「学都松本寺子屋事業」など、同じような事業があるが、横の連携をしっかりとっていただきたい。「学都松本寺子屋事業」の交付金も、「子どもの居場所づくり推進事業」や地域自治支援交付金と同じように、事業開始前に交付していただくとうれしい。

【市長】

「子どもの居場所づくり推進事業」と「学都松本寺子屋事業」、二つの柱を市民の皆さんに分かりやすく、整理しながら進めていく。

交付金については、改めて把握し、時代に即した対応をできるようにしたい。

【傍聴者】

私は農業をされていて、一枚の田んぼを子ども、保護者、地域の方に開放し、有機農業をやっている。お茶を飲んだり、収穫したお米を食べたり、楽しくやっている。子どもたちは①自然の温かさ、優しさ、怖さを学べる②いろいろなジェネレーションの方と交流することでコミュニケーションする力が養われる③みんなで頑張る気持ちが育つ。子どもたちの成長が見られるのが楽しみ。

地区には様々な小集団の活動があり、さまざまな悩みがある。その声を真剣に聞いてくれる窓口があったらいいと思う。地区には、重いことはできないけど、ちょ

つとなら力になりたいという人たちがいる。そのような人たちが活動に参加することは、自分の楽しみにもなる。小集団への参加は、大事な話、地域そのものの活性化にも繋がる。

市が小集団のニーズやつとなら力になりたい人たちの声を拾い、提案していけば、地域の活性化に繋がると思う。

【市長】

有機農業の体験は、日常では経験することができないもので、改めて土や水に直接触れ合い、第一次産業の大切さを多世代で経験、体験できる。寿地区においても、この取り組みが広がってほしい。

小集団の活動は、小さいからこそ、子どもや保護者、参加者の顔が見える関係が築けるという意味で大事だと思う。一方で、小さいと、人手、お金という問題も出てくる。相互の連携もそうだが、市がサポートしていく役割を果たしてく。ニーズの把握、必要な人とのマッチングは地域づくりセンター、センター長が窓口と考えている。

【傍聴者】

世間では少子化が言われている。結婚したい人に対しての支援を考えていただきたい。

【市長】

結婚したカップルが生む子どもの数はそう減っていないが、結婚する人が激減しているのが、日本の少子化の根本のところ。

若い世代が、家庭を築き、子どもを育てることに前向きになれる社会状況に改善しなくては、子どもの声がたくさん聞こえるまちにはならない。

松本市でも、結婚支援金を、ささやかではあるが拡充している。女性や若者を大切にすまち、結婚、子育てに希望をもてるまち、お金だけでなく、いろいろな取り組みを積み重ね、いい方向に変えていきたい。

【寿小池町会子ども広場運営委員会】

活動している高齢者に、3年とか5年の区切りで、市から励みのお言葉をいただければ、張り合いをもって活動できると思う。

【市長】

わかりました。

### 3 最後に

【町会連合会会長】

筑摩野中学校のPTA解散が端を発し、他の団体（町会など）に繋がらないか懸念している。

また、卒業式等に来賓を招待しないというのは、地域と学校は関りを持ってくださいというなかで、いかがなものかという声が届いている。

最後に、今年度、寿地区はモデル地区になった。来年度は、新規のバス路線が運行し、デマンドバスの試行もあり、住民は大変喜んでいる。ありがとうございました。

#### 【市長】

P T A解散は、原点に立ち返り、学校と保護者、強い思いのある人たちと少し緩やかに関わっていきたい人たちが、新しい組織の在り方に作りなおすと捉えている。市としては、マイナスの影響があるならば、支える方法を考えていく。

卒業式等の来賓については、コロナ禍において、来賓の挨拶を行わない形で式を開催したが、そのことで学校が子どもに対する時間を取れるとするならばそれが本来の形ではということ。子どもたちが巣立っていく姿を地域の方々が見送るのは、地域と一緒に学校づくりをしている状況では、自然な姿であり、必要なことだと思う。それぞれの学校で行っていくと思うし、そうなることが望ましいと思う。

最後に、寿地区は、村の時代からの一体感がいい形で残っている地域だと思う。課題はたくさんあると思うが、三世代交流を軸にして、新しい人たちが希望し住み、それを知恵袋が支えていくという方向性が見えた。これからも皆さんが楽しく明るく暮らしていただくこと期待している。

